

調布市広島平和派遣

行程表

7月29日(月)調布駅に集合し、広島市へ行きました。様々な平和関連施設の見学や被爆体験者による講話を通して、平和について学びました。



(飛行機で広島市へ)

令和元年7月29日(月)

平和記念公園

- ・原爆ドーム
- ・原爆供養塔
- ・被爆した墓石
- ・原爆の子の像
- ・原爆死没者慰霊碑
- ・動員学徒慰霊塔
- ・平和の鐘
- ・韓国人原爆犠牲者慰霊碑
- ・平和の灯

広島平和記念資料館

1
目
目



(似島)

令和元年7月30日(火)

似島

- ・広島市似島臨海少年自然の家にて平和学習
- ・似島遺構めぐり

旧日本銀行広島支店

広島市立袋町小学校平和資料館

2
目
目



(被爆体験者による講話)

令和元年7月31日(水)

広島平和記念資料館

- ・被爆体験者による講話
- ・特別展示室見学

折り鶴献納

- ・原爆の子の像

島病院(爆心地)

3
目
目

調布市広島平和派遣

1日目

令和元年7月29日(月)

平和記念公園／広島平和記念資料館



羽田空港から広島へ



原爆ドーム



(上) 動員学徒慰霊塔 (下) 平和の灯



韓国人原爆犠牲者慰霊碑



(上) 原爆供養塔 (下) 被爆した墓石

平和記念公園

世界の恒久平和を願って建設されました。

動員学徒慰霊塔

勤労奉仕に動員され戦禍に倒れた学徒と、原爆の犠牲者を含めた約1万人の学徒の霊を慰めるために建立されました。

韓国人原爆犠牲者慰霊碑

強制労働等により広島で被爆した朝鮮の人々への慰霊と、再び原爆の惨事を繰り返さないことを願って建立されました。

平和の灯

「核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けよう」と、昭和39年8月1日に点火されて以来ずっと燃え続けています。台座は、手のひらを広げた形を表しています。

原爆供養塔

昭和21年市民からの寄付により、仮供養塔、仮納骨堂・礼拝堂が建立され、昭和30年広島市が中心となり、老朽化した納骨堂を改築し、各所に散在していた引き取り手のない遺骨もここに集め納めました。

内部には納骨堂があり、一家全滅で身内の見つからない遺骨や氏名の判明しない遺骨約7万柱が納められています。

被爆した墓石

爆心地から約200mの地に慈仙寺(じせんじ)という大きな寺がありました。強烈な爆風により、境内にあったたくさんの墓石は吹き飛ばされました。平和記念公園の中で、被爆当時の地面をそのままとどめているのは、この墓地だけです。公園が盛り土して建設されたため、池の底のようになってしまった部分が当時の地面です。



平和の鐘



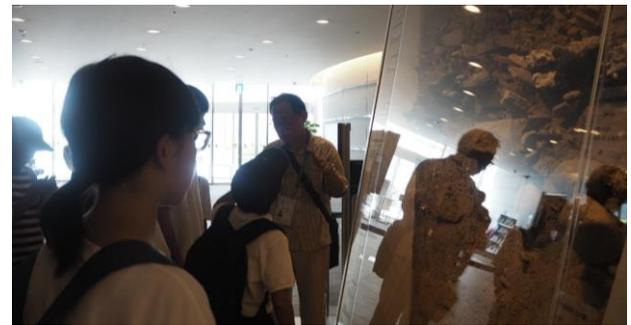
原爆の子の像



平和記念公園



広島平和記念資料館



平和の鐘

核兵器と戦争のない平和共存の世界を目指して、浄財を募り建立されました。鐘の表面には、「世界は一つ」を象徴する国境のない世界地図が浮き彫りされています。

平和記念公園 とその周辺

原爆ドーム

昭和20年8月6日、原爆はこの建物の南東約160m、高度約600mのところで炸裂しました。

平成8年12月、世界文化遺産へ登録されました。現在では、被爆当時の惨状を残す姿がノーモア・ヒロシマの象徴として、時代を越えて核兵器の廃絶と恒久平和の大切さを世界へ訴えるシンボルとなっています。



被爆後の物資不足の時に生まれた「一銭洋食」をルーツに持つ、お好み焼き作りを体験しました。

調布市広島平和派遣

2日目

令和元年7月30日(火)

広島市立

似島／旧日本銀行広島支店／袋町小学校平和資料館



似島へ向かうフェリーでの様子



広島市似島臨海少年自然の家での平和学習



似島(にのしま)

似島は、日清戦争中の明治28年に(※)第一検疫所、日露戦争中の明治37年に第二検疫所、第二次世界大戦中の昭和15年に馬匹^{ばひつ}検疫所が建てられました。

爆心地から8km離れた似島は、爆風によって窓ガラスが割れる被害がありましたが、それ以外の直接的な被害はありませんでした。似島の検疫所には約5千人分の医薬品などの蓄えがあったとされ、負傷者のための臨時野戦病院となりました。原爆投下直後は、20日間の間に約1万人の負傷者が似島へ運び込まれました。衛生材料等は4日後には底をつき、ほとんどの被災者は亡くなったとされています。戦後、似島の地において火葬されることなく埋葬された遺骨や遺品が大量に発掘されました。

(※)第一・第二検疫所では、帰還兵の検疫が行われました。

馬匹検疫所では、軍馬の検疫が行われました。



似島遺構めぐりの様子

- 1 宇品駅プラットフォーム敷石モニュメント
- 2 トロココレール
- 3 馬匹焼却炉跡
- 4 軍用栈橋跡(第二軍用栈橋)
- 5 第二検疫所井戸
- 6 似島陸軍検疫所跡の碑
- 7 横穴防空壕



旧日本銀行広島支店



広島市立袋町小学校平和資料館



旧日本銀行広島支店

爆心地から380mという近距離で被爆しながらも、建設当時の姿を現在も残っています。

被爆時においては、1階と2階は錠戸を閉じていたため、内部の大破を免れましたが、3階は開けていたため全焼しました。被爆から2日後の8月8日には、銀行の支払い業務が開始され、営業不能となった市内金融機関の仮営業所が設置されたという、金融面から広島復興を支えた史実を伝える貴重な被爆建物です。



広島市立袋町小学校平和資料館

爆心地から460mの位置にある広島市立袋町小学校(当時袋町尋常高等小学校)は、原爆によって大きな被害を受けました。当時、多くの児童は集団疎開や縁故疎開により被災を免れましたが、残っていた百余名の児童、そして教職員のほとんどが一瞬にして命を失いました。木造校舎はすべて倒壊・全焼し、唯一鉄筋コンクリート造だった西校舎だけが外郭のみ原型をとどめ、避難場所や救護所として、児童・教職員や地域の人々の安否を尋ねる場となりました。人々は、床に散らばるわずかなチョコレート、焼けた壁に伝言を記しました。授業が再開されたのは、昭和21年5月でした。

調布市広島平和派遣

3日目

令和元年7月31日(水)

広島平和記念資料館／折り鶴献納／島病院

(被爆体験者による講話・特別展示室見学)

被爆体験者による講話

会場: 平和記念資料館 会議室

くにわけ よしのり

講師 國分 良徳 さん

旧制中学4年生の16歳の時、
動員先の工場へでかけようとした
ところ、爆心地から1.8km離れた
自宅で被爆しました。

講話内容

國分さんは9人家族でしたが、原爆によってご家族を亡くされました。お母様が家の下敷きになってしまいましたが、火が迫ってくるなかで逃げざるを得なかったことや、被爆後も差別を受けたことなど、ご自身の辛い体験を語っていただきました。

ピースメッセンジャーはしっかりと國分さんのお話に耳を傾け、自分がもしその立場だったらと想像し、戦争や原爆の悲惨さについて考えました。



平和記念資料館 会議室にて講話を聞く様子



國分さんとちょうふピースメッセンジャー2019



広島平和記念資料館(特別展示室)



原爆死没者慰霊碑前



原爆の子の像



原爆ドーム



島病院(爆心地)

広島平和記念資料館

被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島市の被爆前後の状況を紹介します。



原爆死没者慰霊碑 (広島平和都市記念碑)

碑文には、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから」と書かれています。



原爆の子の像

「鶴を千羽折れば病気が治る」と祈り鶴を折り続け、願い叶わず亡くなった佐々木禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった多くの子どもたちへの慰霊と平和の願いを込めて建設されました。



島病院(爆心地)

人類史上最初に使用された原子爆弾は、この上空約600mで炸裂しました。爆心直下となったこの一帯は、約3千~4千度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人々が瞬時にその生命を奪われました。